

## 【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稲	紋枯病 トビイロウンカ (令和2年9月11日付け速報)	並 やや多	並 やや多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少 やや少	並 並
いちご	うどんこ病 炭疽病 ( <i>G. cingulata</i> ) (注意報第10号) ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 多 並 並	並 多 並 やや多
アスパラガス	斑点性病害(褐斑病・斑点病) (防除情報第9号) アザミウマ類	多 やや多	多 やや多
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ	多 やや少 やや少	多 並 やや少
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 やや少 並 少 やや少 やや多 少	並 やや少 並 少 やや少 やや多 少

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## 普通期水稲

## 1. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(80筆)の結果、発病株率は1.2%(2.7%)、発生圃場率は37.5%(33.4%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は28.0%(44.9%)であった。

## 2. トビイロウンカ

令和2年9月11日付け**病虫害発生予察速報**による。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 9月前期の巡回調査(80筆)の結果、株当たり虫数は0.6頭(0.7頭)、発生圃場

率は75.0% (56.5%)であり、一部多発圃場がみられた(表)。  
 イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.5頭(2.5頭)、寄生株率は34.0%(44.7%)であった。

表 普通期水稻におけるトビイロウンカの発生状況

(上段:圃場数、下段:(圃場率%))

区分		トビイロウンカの株当たり虫数				
		0	0~1未満	1~5未満	5~20未満	20~
振興局	県央	8 (25.0)	23 (71.9)	1 (3.1)	0	0
	島原	11 (55.0)	9 (45.0)	0	0	0
	県北	1 (6.3)	9 (56.3)	5 (31.3)	1 (6.3)	0
	吉岐	0	4 (66.7)	1 (16.7)	1 (16.7)	0
	五島	0	5 (83.3)	1 (16.7)	0	0
圃場数計 (圃場率%)		20 (25.0)	50 (62.5)	8 (10.0)	2 (2.5)	0

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容: 発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は2.4%(9.8%)、株当たり虫数は1.2頭(0.4頭)、白変葉発生圃場率は33.3%(45.0%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(寄生株率5.3%、株当たり虫数0.1頭)。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、9月2半旬以降やや多く推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

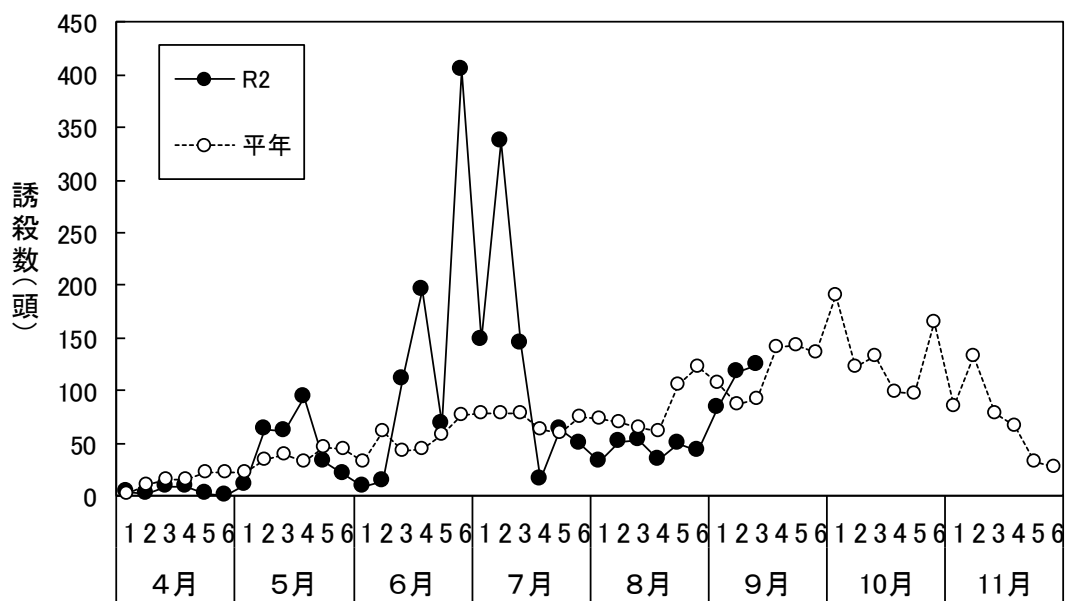


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町) (月・半旬)  
 ※9月4日~6日は台風のため欠測

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は0.3%（0.7%）、株当たり虫数は0.0頭（0.0頭）、発生圃場率は6.7%（18.3%）であった。
- イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（寄生株率4.3%、株当たり虫数0.1頭）。
- ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 稚莢期から莢肥大期にかけて薬剤散布を行う。また、薬剤は着莢部によくかかるよう、丁寧に散布する。
- イ ミナミアオカメムシに対しては一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（27筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率1.2%）。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

令和2年9月16日付け**病害虫発生予察注意報第10号**による。

3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 発生状況

- ア 9月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は2.8%（4.1%）、発生圃場率は29.6%（37.1%）であった。
- イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

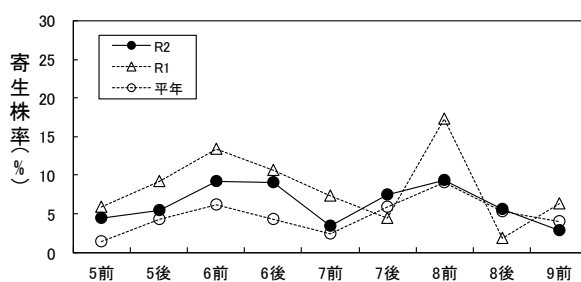


図 ハダニ類 寄生株率の推移

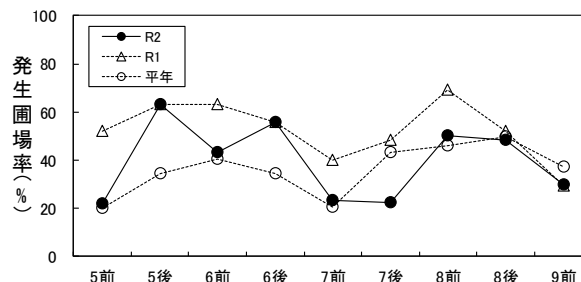


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本圃で多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までに防除を徹底する。
- イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤によっては天敵に長期間影響を与えるものがあるので、薬剤の選択と使用時期に注意する。
- エ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤（令和2年長崎県病害虫防除基準

P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

#### 4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（27筆）の結果、食害株率は3.5%（1.0%）、発生圃場率は33.3%（20.7%）であった。

イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、9月2半旬以降平年よりやや多く推移している（大豆の項参照）。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

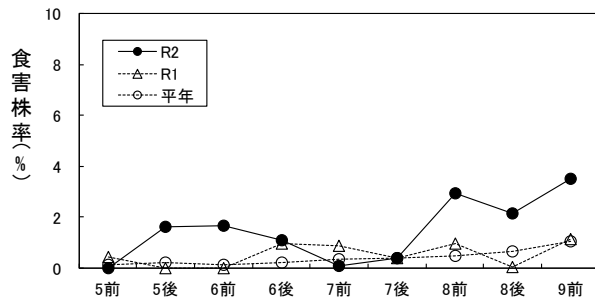


図 ハスモンヨトウ食害株率の推移

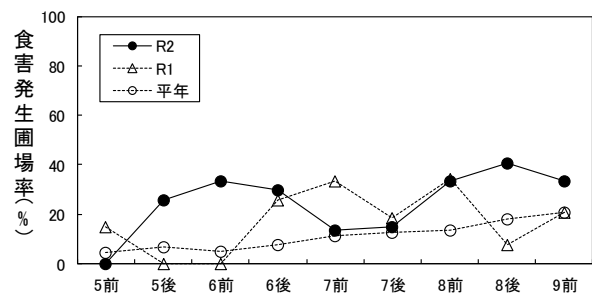


図 ハスモンヨトウ食害発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 定植後における初期食害に注意し、若齢幼虫期の防除を徹底する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤（令和2年長崎県病害虫防除基準 P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避ける。

### アスパラガス

#### 1. 斑点性病害（褐斑病・斑点病）

令和2年9月16日付け病害虫発生予察防除情報第9号による。

#### 2. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10か所）は23.2頭（4.8頭）、発生圃場率は58.3%（56.7%）で一部多発圃場が見られた。

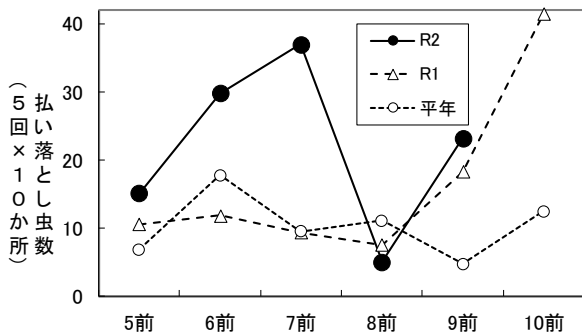


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移  
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

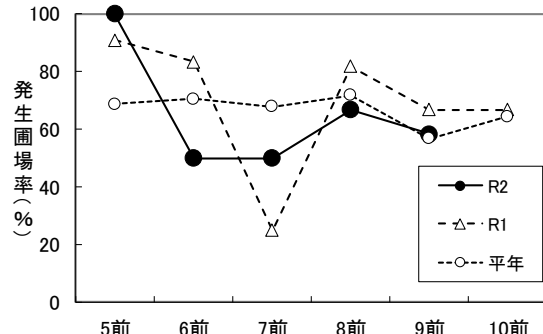


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

- イ 本虫は多発すると防除が困難になるので、発生を確認した場合は速やかに防除を行う。薬剤の散布の際は、茎葉の内部まで十分に薬液が付着するよう丁寧に行う。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準P282～283の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

## かんきつ

### 1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 多
- (2) 予報の根拠
  - ア 9月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.7%（0.2%）、発生圃場率は36.1%（9.5%）であった。発病果率は1.9%（0.1%）、発生圃場率は50.0%（2.4%）であった。
  - イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
  - ア 本病の抑制には、予防的な薬剤散布が効果的である。台風などの強風を伴う雨が予想される場合には、事前に銅水和剤の散布を行う。ただし、収穫期が近い品種では、果実に汚れが残る恐れがあるので注意する。
  - イ 樹上で越冬した菌は翌年の感染源になるため、発病枝や発病果は除去し、圃場外に持ち出し処分する。

### 2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
  - ア 9月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は3.5%（8.4%）、発生圃場率は25.0%（46.0%）であった。
  - イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
  - 薬剤散布にあたっては収穫期が近い品種では使用時期を確認し、使用基準を遵守する。

### 3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
  - 9月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は1.2%（4.9%）、発生圃場率は30.6%（36.4%）であった。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
  - ア 8月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの1枝当たりの寄生虫数は、2.3頭（2.0頭）で平年並であった（表）。
  - イ フェロモントラップによる誘殺数は平年並まで減少している（図）。

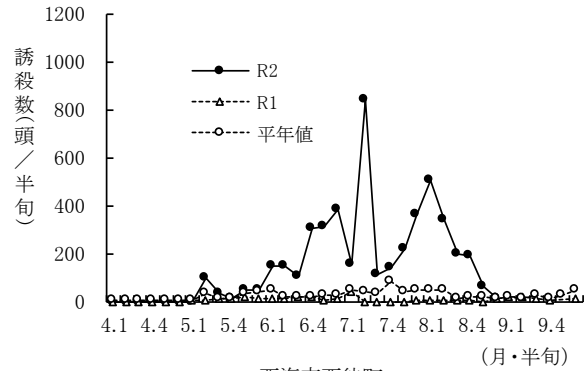
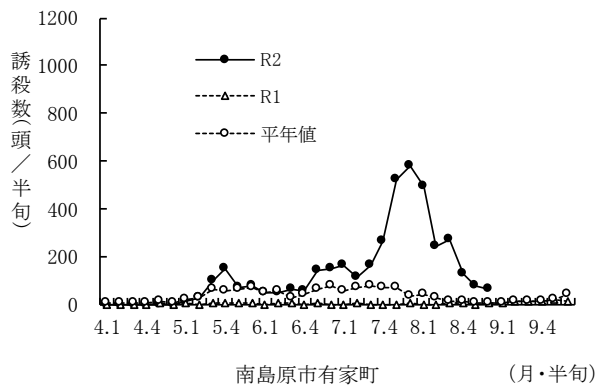
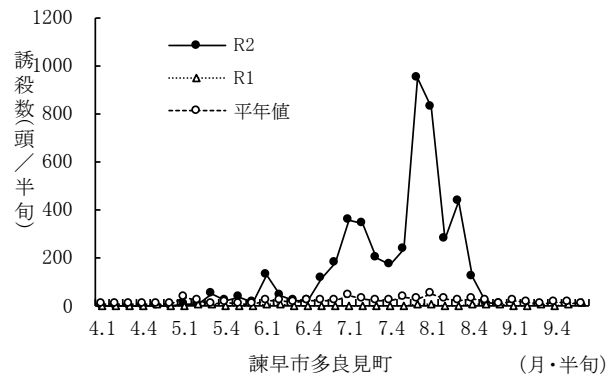
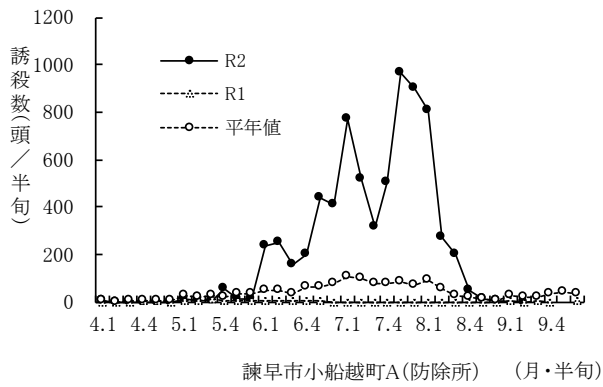


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

※9月1半月は台風のため欠測

表 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
令和2年	1.1	0.4	0.6	0.1	2.2	0.1	0	0	0	0.1	2.3
平年	1.1	0.2	0.2	0.2	1.7	0.3	0	0	0	0.3	2.0

\* 令和2年8月19、20日にヒノキきゅう果結実枝のビーティング調査を実施

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。
- イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布に当たっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は5.0枚(4.5枚)、発生圃場率は36.8%(67.2%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P426～427 の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

## 2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少  
 (2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は6.9頭（15.9頭）、発生圃場率は84.2%（91.2%）であった。

## 3. チャノココクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 並  
 (2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.2枚（0.1枚）、発生圃場率は10.5%（9.4%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年よりやや少なくて推移している（図）。

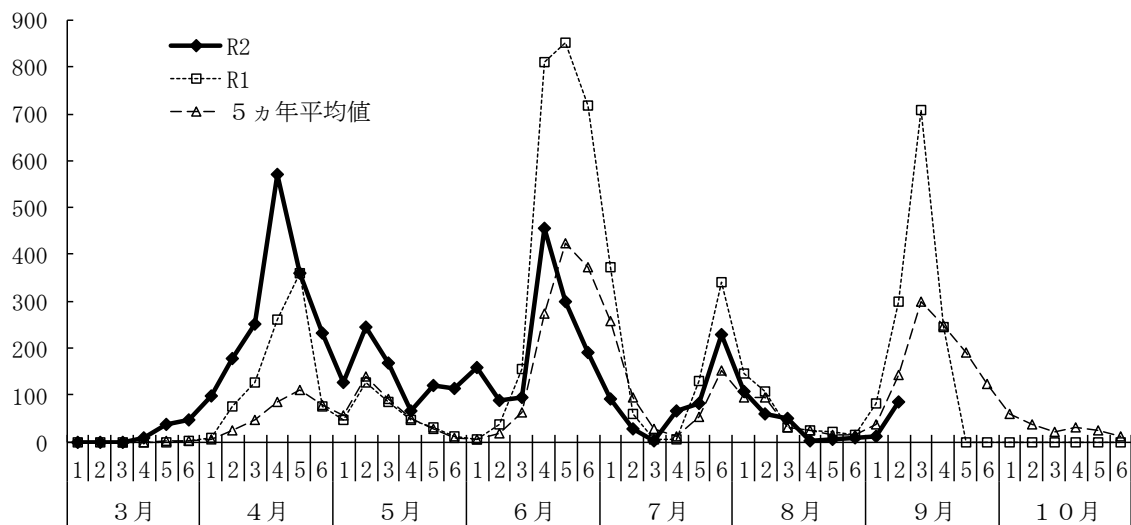


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

## 4. チャノホソガ

- (1) 予報内容：発生程度 少  
 (2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡あたり巻葉数0.6枚、発生圃場率15.7%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年より少なくて推移している（図）。

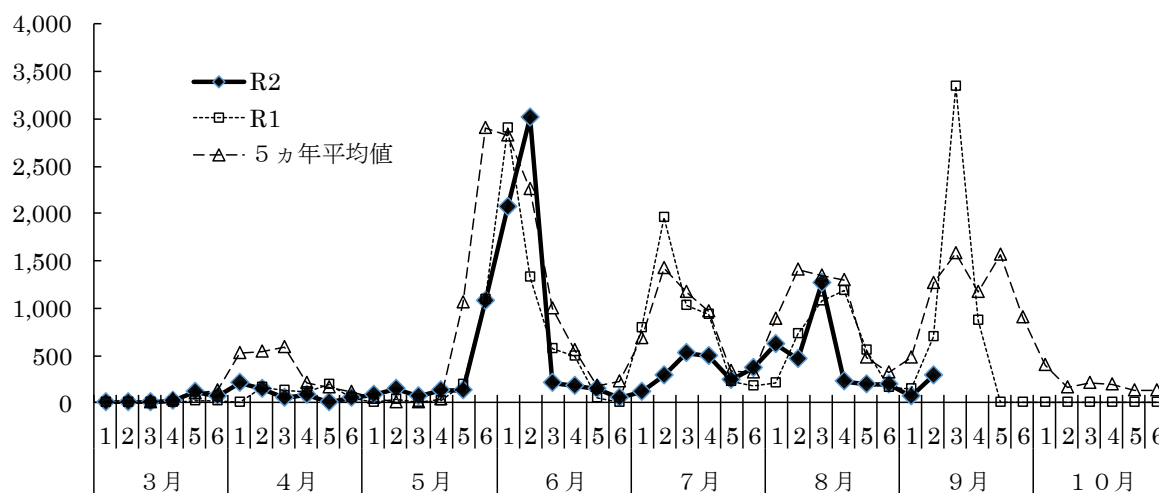


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

### 5. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.6%（0.7%）、発生圃場率は10.5%（14.5%）であった。

### 6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は5.5頭（1.8頭）、発生圃場率は57.9%（55.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P428～429 の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

### 7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率2.9%、発生圃場率20.6%）。



【参考】

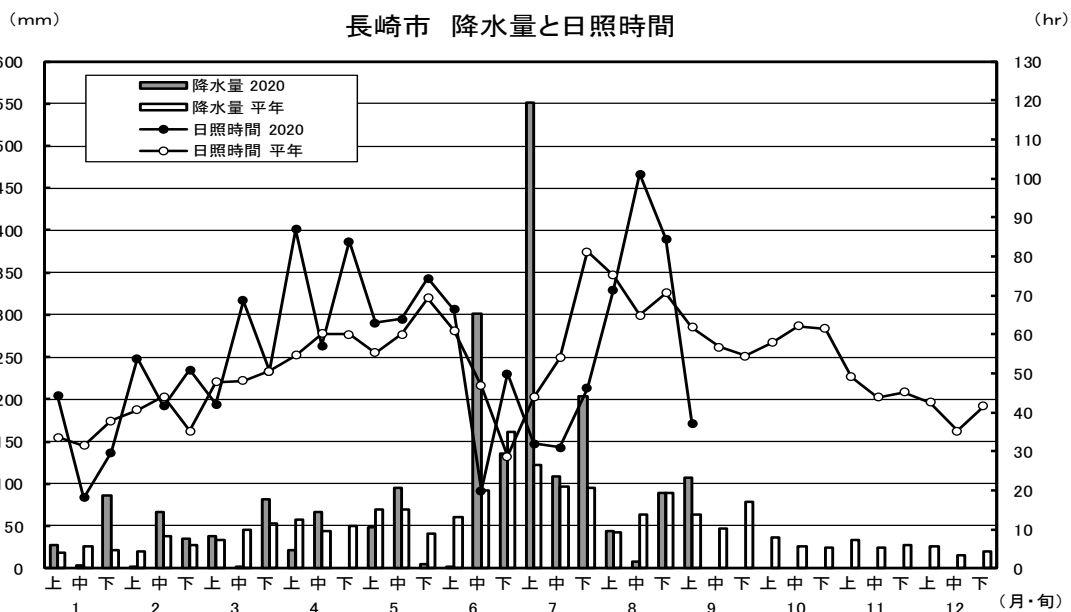
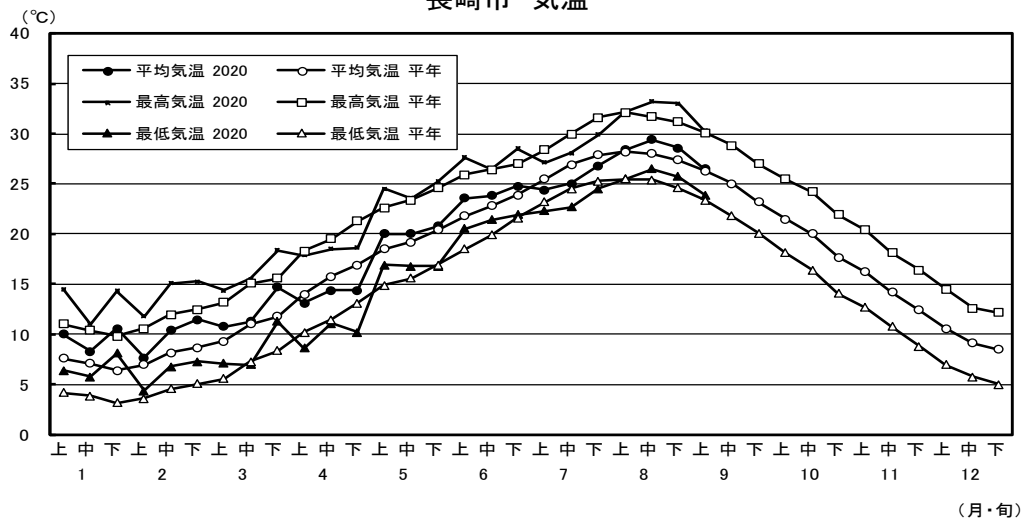
(令和2年9月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和2年の気象経過（長崎地方气象台）

長崎市 気温



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

